

若者や子育て世代、外国籍市民と 地方議会をつなげる

—市民活動団体と岩倉市議会の協働による対話の場づくり—

池田 哲也

(一社) 地域問題研究所事業部長兼主席研究員／「せいじ〜る」代表

はじめに

我が国では、少子高齢化が急速に進行し、2011年(平成23年)には、人口が継続して減少する人口減少社会に入ったといわれている。超高齢化社会に向かう中で、社会全体の活力の低下や地域経済の縮小など生活全般への影響が懸念され、その対応が課題となっている。

複雑化・多様化する諸問題と向き合い、持続可能な地域社会を維持・形成するために、市民一人ひとりが個性を発揮し、社会の意思決定や運営の過程において多くの関係者と関わることで、多様性を認め合う社会を形成していくことが求められている。

こうした危機感を背景に、地方議会においても、議会改革の名のもと、議会基本条例の制定や議会報告会、本会議の動画配信、若者議会や女性議会の開催などの取組が進められている。しかし多くの地方議会は、まだ住民にとって縁遠い存在である

ことに変わりはない。とりわけ、子どもや若者、移住者、子育て世代、外国籍住民などにとっては、日常生活で接点が少ないため関心が持ちにくく、議会の仕組みや役割などへの理解が進まない状況が続いている。

地域の活力低下が懸念されるなかで、多様性を活かした住民自治を進めていくために、身近な課題や政治への関心を高め、市民が議会とともにまちづくりに参加できる開かれた議会にしていけることが重要である。そのような問題意識のもと、本稿では、愛知県岩倉市における市民活動団体や議会等の協働による開かれた議会の取組について紹介したい。

愛知県岩倉市の概況

愛知県の北西部、濃尾平野のほぼ中央に位置する岩倉市。面積約10.5km²の小さなまちに約4.8万人が暮らしており、市街地と田園風景が共存する平坦でコンパクトなまちである。名古屋駅から名鉄特急で1駅11分、市の北部には名神高速道路が通り、最寄りICまで約12分と、交通アクセスに優れている。まちを南北に流れる五条川には、1,300本を超える桜並木があり日本の「さくら名所100選」に選ばれている。さらに、岩倉城址をはじめ、岩倉街道や寺社仏閣、山車巡行、のんびり洗いなど、有形無形の歴史文化財が数多く残っている。

名古屋への通勤のしやすさから、賃貸住宅で暮らす若者や共働きの子育て世代など市外からの

いけだ てつや

一般社団法人地域問題研究所事業部長兼主席研究員、市民活動団体「せいじ〜る」代表。千葉大学大学院自然科学研究科(都市計画専攻)博士前期課程修了。工学修士。1999年に(社)地域問題研究所に入所し、2018年から現職。専門分野は地域コミュニティ、参加型まちづくり。これまで、自治会の活性化や地域福祉、産業振興、子育て支援などの調査・研究に携わり、近年は、老人クラブや子ども会活動の支援も行っている。また、自身も愛知県岩倉市にて、市民活動団体の代表として地域づくりに関わり、ポータルサイトの運営や若者の主権者教育などの活動を実践している。

表1 「せいじ〜る」が実施した市議会と市民をつなぐための主な取組

事業名	日時・会場	協力	参加者
(1)若者と市議会議員の意見交換会 (ふれあいトーク)	2017年8月21日 アピタ岩倉店舗内	岩倉市議会、アピタ、IVC	若者17名 市議15名
(2)外国籍ママと市議会議員の意見交換会 (ふれあいトーク)	2018年2月10日 東新町公会堂	岩倉市議会、岩倉東小学校、 岩倉団地自治会、外国会	外国籍親子22名 市議15名
(3)岩倉市議会本会議見学 (岩倉市議会見学ランチツアー)	2019年12月11日 岩倉市議場、飲食店	岩倉市議会、議会事務局、 元岩倉市議会議員	20～50歳代 15名
(4)岩倉市議会議員選挙公開討論会	2019年4月13日 岩倉市民プラザ	IVC、岩倉市市民活動支援セ ンター、パブリック・ハーツ(株)	参加者40名 立候補予定者9名
(5)若者と市議会議員の意見交換会	2023年11月23日 生涯学習センター	岩倉市議会、議会事務局、 IVC	若者10名 市議15名

出所:筆者作成

移住者も多い。また市内のUR住宅に入居し、周辺の工場などで勤務する外国籍市民も多く、つねに2千人・40か国を上回っている。

行政と市民との距離が近く、地域活動や市民活動が活発である一方で、こうした若者や子育て世代、移住者、外国籍住民などは、地域活動や議会とのつながりが希薄なため無関心層も多い。岩倉市のような小規模な自治体が、今後も持続可能な都市経営を進める上で、世代や出身、国籍などが異なる多様な人材を強みに変えて、個々が自分らしく役割を発揮できる共生・共創の社会づくりが大きな課題となっている。

若者や外国籍市民等と市議会をつなげる取組

岩倉市議会(議員定数15人)では、多様な市民ニーズや地域課題を踏まえた議会運営を目指して、議会基本条例を制定し、本条例を検証しながら、ふれあいトーク、議会サポーター制度、委員間討議、政策提案などの新たな取組を進めてきた。

なかでも、住民との対話の場「ふれあいトーク」は、原則として市議会議員(以下「市議」)15名が全員出席し、市議会での審議等の結果を市民に対して報告するとともに、具体的な地域課題について、関連する地域・分野の市民・団体等と話し合い、議会運営に反映するために実施している。その多くは、自治区や市民活動団体等と協働で企画運営さ

れているのが特徴となっている。

以下に、筆者自身が当事者として関わっている市民活動団体「せいじ〜る」が主体となり、市議会や事業所、若者のボランティアグループ「岩倉ボランティアサークル」(以下「IVC」)等と連携して積み重ねてきた、若者や子育て世代、移住者、外国籍市民等と市議会をつなげる取組を紹介する(表1)。

市民活動団体「せいじ〜る」

若者や子育て世代、外国籍市民などに行政や政治、選挙への関心を高めてもらうことを目的に、様々な対話の場づくりに取り組む団体。大学生、子育て世代、農家、飲食店主など20～50歳代メンバー約10名で運営。2016年発足。岩倉市市民活動支援センター登録団体。

(1)若者と市議会議員の意見交換会

岩倉市内の中学生～30歳代の若者17名と市議15名が語り合う「若者と岩倉市議会議員のおむすびトーク」を、買物客が行きかう市内商業施設の店内の一角で開催した(図1)。冒頭に市議から「議会のイロハ」について紙芝居でミニレクチャーを聞き、各グループで質疑応答を行い議会の役割や市議の仕事について理解を深めた。つぎに、若者と市議が5つの丸テーブルで膝をつき合わせ、「若者の活躍とこれからの岩倉」をテーマに質問や提案内容を議論。その後「若者模擬議会」という設定で若



図1 第1回の様子¹

者9名がマイクの前に立ち、市議に“一般質問”を行った。市議は執行機関役(市長・行政)として、異なる主張や意見に真剣に耳を傾け、台本なしで熱い議論を繰り広げた。

参加者からは、「大人や議会がつながりを持とうとしてくれているのを感じた。今後は主体的に政治に参加できたら」(男子高校生)、「市議とおしゃべりできて身近に感じ、市議のお仕事も知ることができた」(女子大学生)などの感想が聞かれた。なお、参加者からも市議からも好評を得たことから、2023年11月に第2回を開催し、中学生や子育て中のママさんと市議が活発に議論した(表1(5))。

(2)外国籍ママと市議会議員の意見交換会

子育て中の外国籍の保護者に行政などへの関心を高めてもらうとともに、暮らしの悩みや市政への要望などを届けるため、外国籍市民と市議が語り合う「外国人ママと市議会議員のおだんごトーク」を、外国籍市民が多く暮らす地域の公会堂で開催した。

当日は、ブラジルなどにルーツをもつ外国籍の親子22名と全市議15名、せいじ〜のメンバーらが参加し、5つのグループに分かれて、言葉の壁や子どもの進学などの困りごとを中心に意見交換した。話しやすい雰囲気をつくり本音を聞き出すため、市議は三角巾とエプロンを着用し、参加者と一緒に白玉だんごを作って食べながら意見交換を行った(図2)。

ブラジル国籍で7歳から日本で暮らしている女性は子ども2人と参加。「市議の存在を初めて知っ



図2 グループワークの様子

た。意見を言いやすい場を作ってもらえてありがたい」との感想が聞かれた。この会は、市議会が選挙権のない外国籍市民の声を聴くための珍しい座談会として、メディアでも紹介された。

(3)岩倉市議会本会議見学ツアー

岩倉市議会の12月議会の本会議を傍聴し、議会の様子や市議のお仕事ぶりを見学して、議会や政治をもっと身近に感じてもらうことを目的に、「おいしく楽しく!岩倉市議会見学ランチツアー」を開催した(図3)。

当日は、ベビーカーを押して参加された方をはじめ、20～50歳代の計15名が参加。全員が議会の傍聴は初めての体験だったので、事前に元市議の方から本会議の概要や議場での注意点などについて説明を受けてから議場に入室した(図4)。傍聴席にいた方とともに約20名で、子育てなどに関する一般質問の様子を1時間ほど見学し、議場にもいい緊張感が生まれたように感じられた。

その後、飲食店に移動し、ランチを食べながら傍聴の感想などを意見交換。参加者からは「一人で傍聴するのは難しいのでいい機会だった。」「次回は自分が関心のあるテーマについて傍聴してみたい」など多くの意見が出された。(第2回はコロナウィルス感染拡大により中止²)

(4)岩倉市議会議員選挙公開討論会

2019年4月、岩倉市議会議員選挙に先立ち、岩倉市市民プラザで公開討論会³を開催。複数の候補者が立候補する市議選での公開討論会は岩倉

【主催：せいじ〜る（岩倉市市民活動協議会）】

議員さんのお仕事を学べ、議会を政治をもっと身近に

**おいしく楽しく！
岩倉市議会
見学ランチツアー**

議会改革度全国4位の岩倉市議会
都道府県、市区町村の議会を対象とする「議会改革度調査2018」のランキングで岩倉市議会が全国4位に入り、3年連続で愛知県内1位であること、みなさんをご存じでしたか？選挙区外に注目されにくい議員さんの存在、実際に議員さんの議会での仕事を学べ、みなさんでランチを食べてみましょう！

2019年12月11日（水）午前10:30～13時頃
◇岩倉市役所1階ロビー 集合
◇誰でも参加OK！とくに子育てママ 大歓迎♪
（先着15名限定・要事前申込）

【第1部】ガイダンス、岩倉市議会本会議（一般公開）傍聴
【第2部】ランチミーティング（昼食代実費 ¥1,200 程度）
市内の飲食店でランチを食べながら、議会の傍聴の様子や質問、議会に期待する役割など、みんなでざっくばらんに本音トーク！

※本ツアーは任意参加で自由に参加するものです。特定の団体・個人を勧誘し、上乗せ・中絶すること、目的としたものではありません。
※一部参加費の補助金や補助・テーマは、本ツアー事務局では不明のため、詳しくは当日のご案内となります。
【お申込・お問合せ】12/9日までに、せいじ〜る（岩倉）へお電話下さい（090-6392-3776）

図3 開催チラシ

市では初めての試みで、全国的にも珍しい取組であった。9名の立候補予定者が参加し、来場者は子育て世代や女性の姿も多く見られ全体で40名が参加した。

前半は、1人ずつ自己紹介&所信表明。経歴や趣味・特技、力を入れたい取組などをプレゼンした。後半は3～4人のグループにわかれて意見交換（図5）。来場者の投票をもとに「市民参加のまちづくり」と「子育て世代の移住・定住」の2つをテーマに各20分ずつ議論した。シナリオのない意見交換の様子から、立候補予定者の人柄やこだわり、対応力などが垣間見え、来場者からは「立候補予定者が自分の言葉で話し合う様子が見られて興味深い」という声が多く聞かれた。

討論会終了後は、来場者と立候補予定者の交流の時間を設け、候補者に熱心に質問したり、おしゃべりを楽しむ様子が見られた。参加者アンケートからも大変評価の高い公開討論会となった。

参加者アンケート調査結果

- 「女性」40.0%、「49歳以下」50.0%
- 「公開討論会に満足」計73.4%
- 「選挙への関心が高まった」計83.3%
- 「投票に有益な情報が得られた」計73.3%
- 「また参加したい」100.0%



図4 はじめて議場に入る参加者



図5 グループでの話し合いの様子

関心を喚起し 楽しく参加してもらうための工夫

前述（1）～（4）に共通する特徴や工夫を整理する。こうしたノウハウを積み上げ、他の団体や地域に展開し、新たなつながりや価値を創出する場を生み出すことが求められる。

- 政治や議会などのとっつきにくいテーマに、参加したくなる魅力やネーミングを加えることで、参加のハードルを下げ、参加のきっかけとなる「タッチポイント」を増やす。
- 若者・外国籍市民・子育て世代などの「当事者」と一緒に作り上げることで、ニーズにあった事業を構築するとともに、主体形成を促す。
- 調理や食事、ゲームなどの一緒に体を動かす「体験」を共有し、参加者同士の関係性を深める。
- 「説明」「議論」「正解」よりも、「対話」「共創」「集合知」のプロセスを重視する。
- リラックスして対話できるように、アクセスしやすい身近な場所の活用や、BGMなどの雰囲気づくりを工夫し、なるべく「ホーム（日常）」に近づける。

- 子連れの参加を歓迎するメッセージを発信し、安心して参加できる環境を整える。小さな子どもも当事者として含めて参加者の多様性を高める。
- 専門家による解説・ガイド、参考資料などによるわかりやすく丁寧なインプットを行い、初心者も理解しやすくする。

成 果

一連の取組を通じて、議会への理解が進まなかった若者らが議会や議員とつながり、その存在を身近に感じる機会となった。また、議員との直接対話が「自分の意見を届けることができた」という実感や成功体験となり、政治に“あきらめ”を感じていた無関心層の市民意識を高めるきっかけになったといえよう。

議会側にとっても、これまで声が届きにくかった若者や外国籍市民などとの新たな対話のチャンネルを創出できた。そして、多様な価値観やバックグラウンドに基づくニーズやアイデアを把握し、まちづくりを共創する機会やネットワークが広がったことは大きな成果であろう。

なお、全国の地方議会を対象にして早稲田大学マニフェスト研究所が実施している「議会改革度調査」のランキングでは、2014～2023年度の10年間で全国50位以内に7回入り、住民参画の分野では2016年度以降連続して全国10位以内に入っている⁴。議会改革の取組の成果を測る目安の1つとして、今後も引き続き注視していきたい。

課題と展望

これまで単発のイベントとして行ってきた取組を、今後は多様な組織や団体とゆるやかに連携しながら、身近な日常生活や地域活動の現場に組み込んでいくことが求められる。それによって、若者などの多くのサイレントマジョリティの興味や関心を喚起していきたい。さらに、多角的な視点から課題をとらえ、集合知により質の高い政策を立案し、ア

クションへと展開することが期待される。こうした取組を地道に積み重ねることで、次代の担い手を育成（主体形成）する土壌が豊かになり、徐々にすそ野が広がっていくものと思われる。

岩倉市では、2025年1月に岩倉市長選挙が行われる。すでに当団体が発起人となって多くの市民活動団体等に働きかけて、公開討論会実行委員会の発足にむけた準備を進めている（2024年10月現在）。4年前の市長選挙の際にも公開討論会を実施し、2名の立候補予定者のご協力のもとで、有権者とともに岩倉の未来を展望した。しかし、実際の投票率は32.94%（2017年：無投票／2013年：46.06%）と低い水準にとどまった。とりわけ若い世代の投票率の低さが課題となり、公開討論会の進め方にも様々な課題を残した。

公開討論会が特効薬にはなり得ないものの、本稿で述べてきた一連の取組の効果を測るためのものさしとして、投票率が1つのバロメーターとなろう。これまで蓄積してきたノウハウやネットワークを生かして、よりよい公開討論会にチャレンジすることで、微力ながら共生・共創の社会づくりに貢献したい。■

《注》

- 1 掲載している写真は全て筆者撮影。
- 2 第1回参加者の要望を受け、2020年3月に第2回を企画。3月定例会の「財務常任委員会」の見学を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止とした。
- 3 公開討論会を通じて政治家を選ぶというルールを日本に根づかせる実践運動とネットワーク創りを行っている「一般社団法人公開討論会支援リンカーン・フォーラム」が公開しているマニュアルを参考に実施した。
- 4 早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革調査部会が、ホームページを通じて公表している2010年度以降の「議会改革度調査」の結果から引用した。

《参考文献》

岩倉市（2021）『第5次岩倉市総合計画』（編集 総務部秘書企画課）